

## 通変の定義

『星平會海全書』『三命通會』、その他、中国の子平の書すべてに、「看命先看日主（命を見るにはまず日主を看よ）」とか、「以日爲主（日をもって主となす）」というくだりを見ることができる。子平においては、日の干を八字を見る際の視点の中心とする。このことは最も基本的であり、重要な決まりである。

そのため、日干にっかんと他の干との関係を論じることが多いので、日干を中心に据えて生剋せいこくを論じる用語として、通変つうへんというものが定義されている。古代中国の中央集権的、封建時代に、また、儒教が盛んであった時代的背景の中で考案された用語なので、少々古くさい感じがあることは否めないものではある。

通変は、厳密には十の名称が定義されているが、干の陰陽さえ把握していれば、次のように五つの通変としても大

きな問題は発生しない。

日干と同一五行を比劫ひこつとする。

日干が生じる五行を食傷とする。

日干が剋する五行を財とする。

日干を剋する五行を官殺とする。

日干を生じる五行を印いんとする。

右の関係を図示すると次のようになる。

## 図の通変



(フレームの同じボタンをクリックしてください)

日干別に整理すると次のようになる。



- この通変には十干と同様に、多くの事象につながる意味作用が仮託されており、事象を論じる際、重要な役割を

果たすことになる。しかし、月支の蔵干の通変のみで、その人のすべてを語ろうとする安易な四柱推命を見かけが、そんな単純ではないことを知っておいていただきたい。「通変の定義」

「この通変のことを日本では何故か「星」つけて、通変星と言うことが多い。中国の古書には「通変」「通変の法」あるいは「変通」と言われていて、星をつけるのは日本独自の呼び名ようである。呼び方の違いだから、大した問題ではないとも言えるが、星をつけたため子平は占星術であるという誤解を招く原因となっていることは残念である。

最終更新  
2000  
： 1  
16